

【科研費応募支援ニュースレターNo.15】 発信日 231208（金）
タイトル_オープンアクセス化と「粗悪ジャーナル」

教育職員各位

URA 高木敦子

いつもお世話になり、感謝申し上げます。URAの高木敦子です。
今回は、社会連携・研究推進センター センター長の草場先生から、学内のホームページに記載がないとご指摘いただきました「論文投稿時の注意喚起」について、書かせていただきます。いわゆる「ハゲタカジャーナル問題」（predatory journal、捕食ジャーナル、粗悪ジャーナル）です。これは論文のオープンアクセス(OA)化を悪用したビジネスモデルです。なお、「ハゲタカ」という言葉は特定の動物を貶めることになると思われますので、ここでは以後、「粗悪ジャーナル」と呼ぶことにします。海外でも「ハゲタカ」という言葉は、使っていないようです。

まず、OAについて述べます。ご存じの通りOAとは、学術論文に対して誰もがインターネットを介して無料でアクセスして利用できるようにすることです。ネット環境さえあれば、どの国からでも情報アクセス可能とする平等化が第一目的と理解しています。また、欧米において、公的資金を投入された研究成果はOAが推奨されています。本国でも、国民の税金を原資としている科研費の成果等の論文文化には原則OA化が定められています。

OAには（1）出版社にオープンアクセス化するためのAPC（Article Processing Charge、論文投稿料）を支払い、論文出版と同時に出版論文そのものを公開する方法（ゴールドOA）、（2）大学等が構築・運用する機関リポジトリ（大学や研究機関がその所属研究者の知的生産物を電子的形態で集積し保存・公開するために設置する電子アーカイブシステム）等を利用する方法（グリーンOA）等があります。前回の『科研費応募支援ニュースレターNo.14』に書かせていただきましたプレプリントサーバーへの投稿は査読されていない状態での投稿ですので、今回の内容とは異なります。

ゴールドOAでは、高額なAPCを支払う必要性があり、グリーンOAでは、著作権を持つ各雑誌社の取り決めにしたがって、論文が出版されてから、規定の期間（エンバゴ）を経てしか公開できないことや、雑誌にのっている論文の形ではなく、多くの場合、著者最終稿しか公開できないなどのデメリットがあります。しかし、OA化することは、自分の論文を引用される確率があがる、成果の社会還元をしやすくなるなどのメリットもあります。

実際、非OA論文に比して、OA論文は平均被引用率が約1.6倍に向上するという報告があります。さらに即日OAの場合には1.8倍であるのに対して、論文発表から一定期間後では1.1倍であり、即日OAは被引用数の増加に大きく寄与していることが

示されています（資料 1、2）。情報のアクセス可能性の平等化を目指した OA 化ですが、高額な APC の支払能力は、論文投稿そして被引用数にまで影響し、潤沢な研究費の有無が不平等をもたらしている点は問題かと思えます。今回はこの点は深掘りしません。

OA 化を背景として、これを悪用したビジネスである、「粗悪ジャーナル」について、先生方は重々ご承知と思いますが、念のため書かせていただきます。「粗悪ジャーナル」はオープンアクセスジャーナルの中で、APC 収益を目的として、適切な査読を行わない粗悪な学術誌のことです。

粗悪ジャーナルかどうかの見分け方は難しいですが、以下の特徴があります。

- (1) email で執拗に投稿を勧誘する。
- (2) ウェブが洗練されておらず誤字や文法の誤りがある。
- (3) 出版社の所在地や連絡先の記載がない、もしくは偽った情報が記載されている。
- (4) 編集責任者や編集委員がその分野で実績ある研究者でない。あるいは、了解を得ずに著名な研究者の名前を使用していることもある。
- (5) 編集責任者や編集委員が明記されていないこともある。
- (6) 詳細な掲載料の記載がない。いつ請求されるかも未記載である。
- (7) 査読の方針や過程が明瞭でない。
- (8) 論文撤回や著作権譲渡に関する説明がない。
- (9) 権威のある雑誌名に似せているものもある。例えば、1 文字 (s) 加えて複数形にしているだけというものもある。
- (10) 短時間での論文発表を謳っている。査読期間が十分確保されていない。
- (11) 雑誌の目的やテーマが明記されていない。
- (12) 雑誌の対象分野や収録論文の分野が広すぎる。
- (13) 同僚や該当分野の研究者がその雑誌を知らない。
- (14) 雑誌の問い合わせ先や編集者の電子メールが正しくない。
- (15) ISI Journal Impact Factor 等に似せた情報が掲載されている。

粗悪ジャーナルに投稿するデメリットを述べます。

- (1) 研究の正当性への不信
- (2) 著者とそれのみならず、著者の所属機関に対する評価の低下
- (3) 論文受理後の不当な掲載費用の請求
- (4) 論文投稿および受理後の取り下げ不可（投稿後に粗悪ジャーナルと気づいた場合にも、二重投稿となるため、別のジャーナルに再投稿できない）
- (5) 不備のある論文による学術的混乱および社会的悪影響
- (6) 容易な論文掲載による若手研究者育成への悪影響
- (7) 雑誌の廃刊に伴うオンラインからの論文の消失
- (8) 著作権侵害への対処不能
- (9) 研究費および研究参加者や実験生物の非生産的使用
- (10) 質の高い論文を投稿したとしても、そのように評価されない

粗悪ジャーナルに掲載されている論文は、査読が適切に行われていないため、それを引用することだけでも、大きなデメリットがあります。粗悪ジャーナルと気づかず、研究途上で参考にすることでも、再現性がないなどの不利益があります。また、粗悪ジャーナルが廃刊してしまうと、引用文献にアクセスできなくなります。(粗悪ジャーナルではない OA 誌でも廃刊ということはありませんが、これについてはデータの長期保存に関して検討されつつあります。)

粗悪ジャーナルを避けるためにできることを述べます。

重要な点は、以下のデータベースの 1 つで、判定することはできないことです。

1 報でも多く、少しでも早く論文を出さないといけないと切羽詰まった研究者を餌に、粗悪ジャーナルは今も増殖しているので、完全には把握しきれていません。また、様々な手段を駆使して、ホワイトジャーナル(粗悪ジャーナルではないとされているもの) リストに入ろうとするグレーゾーンの出版社もあり、刻々とその状況は変わっていると考えられます。そのため、以下はあくまでも参考です。複数のデータベースを参考にし、チェックツールも使い、また、上述の粗悪ジャーナルの特徴の有無の検討も行ってください。

- DOAJ (Directory of Open Access Journals) : 基準を満たした、一応、健全とされているオープンアクセスの学術情報データを公開するサービス
<https://www.doaj.org/>
- Web of Science : 影響力の高い学術雑誌を収録している(グレーゾーンのもの等がはいっていることもある)。収録雑誌リストのみなら、アカウント作成(無料)後にダウンロード可能 <https://clarivate.com/ja/solutions/web-of-science/>
- Think Check Submit : 粗悪ジャーナルかどうかチェックするツール
日本語翻訳版(<https://thinkchecksubmit.org/journals/japanese/>)もありますが、すこし翻訳がおくれるので、元の英語版も見て下さい。
<https://thinkcheckattend.org/tcs-initiative/>

ジャーナルのみならず、国際学会学術集会の中には、参加費徴収が目的である「粗悪学術集会」といわれているものもあり、ここでの発表の誘いにのらないよう、ご注意下さい。粗悪ジャーナルへの投稿へも引き込まれます。

本学 web サイト【研究・社会連携»科学研究費助成事業】ページ内に、科研費の応募支援や研究支援に関する情報が掲載されています。

https://www.osaka-sandai.ac.jp/research/grantinaid_scientific_research.html
【ID: kenkyu パスワード : sanken3001】

これからも、科研費申請や研究に関し、情報共有のためメール発信させていただきたいと思っております。気軽にお付き合いいただき、なにか少しでも先生方のお役に立てればと願っております。ご不明点、ご意見、ご希望などございましたら、メールで

URA 高木敦子 (8atakagi@cnt.osaka-sandai.ac.jp) まで、お伝えいただきますよう、お願いいたします。

今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

失礼いたします。

参考資料

資料 1 大隅典子、連載 オープンサイエンス時代の論文出版 週刊医学界新聞 3531号 2023年9月4日 他

https://www.igaku-shoin.co.jp/paper/archive/y2023/3531_04

資料 2 Wiley、Wiley ジャーナルで論文を出版するときオープンアクセス(OA)を選ぶ利点とは? 2021 <https://bit.ly/3rKRED2>

その他 参考資料

- 「ハゲタカ出版社から学んだこと」ジェフリー・ビール著 日本語訳：京都大学附属図書館 2012年から2017年までハゲタカ出版社を特定しリストアップしてきた体験談
- 奈良先端科学技術大学院大学 研究推進機構 研究推進部門 「ハゲタカジャーナル」 <https://www.naist.jp/kensui/information/predatory-journals.html>
- 北海道大学北キャンパス図書室 千葉浩之「ハゲタカジャーナル問題：大学図書館員の視点から」 <https://current.ndl.go.jp/ca1960>